

第32回 教職員研究集会

9月
20~21日

参加者人数 **148人**

対面87人、オンライン61人

集会テーマ

「大学改革の現状と今後—私たちの進むべき方向」

対面会場：京都大学吉田キャンパス



今回の教職員の集会のテーマは「大学改革の現状と今後—私たちの進むべき方向」です。国立大学が法人化されてから20年以上が経ちました。この間、日本の大学に起こったことをひとこと言つと、研究力の低下だつたというのが私たちの実感です。そうした状況にあつて、法人化20年の「改革」を総括し、現状を分析し、今後の方針を共に考えよう、という趣旨です。

記念講演は京都大学教授の駒込武氏「学問の自治」「学問の自由」と労働組合運動—でした。全体集会・記念講演終了後、15時30分から21日(日)16時まで各分科会が開催されました。いずれも盛会で、大いに議論が盛り上がり、大いに報告を参考してください(1面〜4面掲載)。

全大教は、9月20日(土)・21日(日)の2日間にわたる教職員の集会を開催しました。今回は7年ぶりとなる対面集会とオンラインによる遠隔とのハイブリッド形式でした。参加人数は67単組、148人(対面87人、オンライン61人)でした。ハイブリッド形式ということで、機器の設置や運用に若干の不慣れな点がありましたが、全体として大きなトラブルなく運営することができました。



初日終了後の懇親会は京都大学吉田食堂にて開催されました(写真左)。寮内の見学ツアーも行われ、学生自治寮の生活が垣間見られ、たいへん興味深いものでした。

今回の教職員の集会の記念講演は京都大学教授駒込武氏による「学問の自治」「学問の自由」と労働組合運動—でした。氏の近著『統治される大学・知の困い込みと民主主義の解体』(地平社、2024)や『私物化』(さるる国公立大学) (岩波書店、2021)は大学改革を語る上での必読文献です。講演では、「学問の自由が憲法に特筆されているのは、学者が大学の被雇用者として弱い立場にあるからだ」という高柳信一による憲法学説を紹介された後、大学で軍事研究を行うことの問題は知が困い込まれる点にある、卓越大等の運営方針会議に現役の財界人が参加していることは利益相反の危険があるといった問題提起の上、私大や公立大の教職員と連帯した組合活動、学生・院生との大学共同自治といった提案がなされました。それにより大学の公共性を再構築することが私たちの進むべき方向です。

【記念講演】 今回の教職員の集会の記念講演は京都大学教授駒込武氏による「学問の自治」「学問の自由」と労働組合運動—でした。氏の近著『統治される大学・知の困い込みと民主主義の解体』(地平社、2024)や『私物化』(さるる国公立大学) (岩波書店、2021)は大学改革を語る上での必読文献です。講演では、「学問の自由が憲法に特筆されているのは、学者が大学の被雇用者として弱い立場にあるからだ」という高柳信一による憲法学説を紹介された後、大学で軍事研究を行うことの問題は知が困い込まれる点にある、卓越大等の運営方針会議に現役の財界人が参加していることは利益相反の危険があるといった問題提起の上、私大や公立大の教職員と連帯した組合活動、学生・院生との大学共同自治といった提案がなされました。それにより大学の公共性を再構築することが私たちの進むべき方向です。



2025年9月20日午後(京都大学 人間・環境学研究科棟 大講義室)

全大教は、教授会の権限を制限する学校教育法を再改正させ、学問の自由と大学の自治を守るための取り組みとして、日本私大教連・公大連と共同で「三団体協議会」を発足させ活動を進めています。教文部では、「授業料を値上げすることの是非」といった論点が取り上げられ、授業料値上げと奨学金の充実という方法では学生の分断が進むこと、高等教育を受けることは基本的な人権であり、国家はそれを保証する義務があること、高等教育の受益者は社会全体であることなどの意見が出され、大いに参考になりました。2時間があっという間に過ぎ、続きは吉田寮での懇親会ということで閉会しました。

は、前回の教職員の集会に続いて、日本私大教連・公大連にもご参加いただく企画を立てました。分科会では、三団体の委員長よりそれぞれの現状につき報告がありました。学生の奨学金として措置された5,000億円の予算の半分以上が未執行となっていること、公立大学に対する地方財政措置として交付された予算が全額は公立大学に支給されていない実態など、国公立大学を取り巻くさまざまな問題が紹介されました。各団体で国会議員との懇談を進めるなど、積極的な取り組みを行っていることも報告されました。

ディスカッションでは、「授業料を値上げすることの是非」といった論点が取り上げられ、授業料値上げと奨学金の充実という方法では学生の分断が進むこと、高等教育を受けることは基本的な人権であり、国家はそれを保証する義務があること、高等教育の受益者は社会全体であることなどの意見が出され、大いに参考になりました。2時間があっという間に過ぎ、続きは吉田寮での懇親会ということで閉会しました。

大阪府職労の小松委員長を講師にお招きし、大阪府職労での実践例を元にしたコミュニティ・オーガナイズの手法についてお話しいただきました(写真は2面掲載)。

コミュニティ・オーガナイズとは、当事者が自分たちが抱える課題について自ら解決に向けた集団行動を起こす、または起こすことができる組織づくりの手法のことです。従来の組合活動と目的は同じでありつつ、活動の手法が異なっています。

分科会
学問の自由と大学の自治を守るために—国民の理解と支持をどう獲得するか—
(教文部企画)

分科会
【学習会】コミュニティ・オーガナイズを活用した活動の活性化
(組織拡大WG企画)

全大教新聞

2025年10月10日

第436号

【発行所】

全国大学高専教職員組合
(略称：全大教)



【PDF版(全面カラー)】
http://zendaikyo.or.jp/?page_id=107

【電話】 03-6802-4250

【HP】 <http://zendaikyo.or.jp/>

【所在地】〒110-0012
東京都台東区竜泉
2-20-15 都築ビル 2階

* 組合員の購読料は組合費に含まれています

今月の紙面

② 分科会報告つづき
「学習会」コミュニティ・オーガナイズを活用した活動の活性化(組織拡大WG企画) 9月20日(土)午後
「高専」 9月20日(土)午後〜21日(日)昼まで
「教員」 9月21日(日)午前
「技術職員」 9月21日(日)午前
「非常勤職員」 9月21日(日)午前

③ 「病院」 9月21日(日)午前
「事務職員」 9月21日(日)午後
「大学共同利用機関」 9月21日(日)午後
「青年」 9月21日(日)午後
④ 「公立大学」 9月21日(日)午後
「附属学校」 9月21日(日)午後
「女性部交流会」 9月21日(日)昼休み